

## 派遣さんのなまえ

「先月辞めた派遣さんがね・・・」「どこに座ってた派遣さん?」「〇×チームの人。△△から通ってた派遣さん。通勤に一時間半もかかって大変だったみたい」

この派遣さんに、名前はなかったのでしょうか。名前がないはずありません。おそらく名前を覚えることをしなかった正社員の人たちなのでしょう。この会話の人たちからすると、職場にたくさんいる派遣さんのひとは、「1人」という「数」でしかなく、「〇〇さん」という固有の人ではないのかもしれない。

管理職の方は、部下の一人ひとりに「〇〇さん」と声をかけているか思い出してみてください。用事のあるときだけ「〇〇さん」と呼んでいますか。注意するときだけ「〇〇さん」と呼んでいますか。それとも、「おはようございます。〇〇さん」「〇〇さん、お疲れ様です。」と挨拶に名前を添えていますか。用事はなくても、とにかく声かけをしていますか。「〇〇さん、調子どう?」「〇〇さん、今日は電話多いね。」「〇〇さん、さっきのお客様大変だった?」

木蓮の花が咲き始めました。新学期、新年度が近づいています。新入社員、新一年生はいままでとは異なる社会に入ります。クラス替えをした新学期は、クラスメートの顔ぶれが変わります。あらたに友だちづくりです。通勤通学に、2021年はリモートワークやオンライン授業も加わることでしょう。緊張感を伴う新しい生活の始まりです。

「愛着形成」という言葉があります。子どもが親との間に愛着形成がなされると安心感、信頼感を得て、自分の世界を広げていくというものです。「ママから離れてハイハイして興味のあるおもちゃに向かう。さわってみたら大きな音がしてビックリした。怖くなった。大急ぎでママのところに戻ったらグーっとしてくれた。ホッとして、安心して、再び一人で出かけていく。ふりむけば、ママがにっこりして見ている」と、ママという戻るところがある、ママは自分を必ず受け止めてくれると信じられる感覚です。これらの体験を貯めて、信頼感を獲得していきます。こうした安心・信頼があるから「ひとりで動く」「ちょっと遠くに行ってみる」ができるようになります。相手はママに限るものではありません。「養育者」となる人たちのかわりが重要です。

新入社員や新一年生にとっても、4月は「新しく属した組織・場への愛着形成」をする時期となるでしょう。新入社員や新一年生が愛着形成をしていくこの時期、受け入れ側の上司、職場の仲間、担任の先生のかかわりが重要となります。

『いちねんせい』（谷川俊太郎・詩／和田誠・絵／小学館・発行）に、「せんせい」というページがあります。「せんせいが わたしの なまえを よびました せんせいは わたしの なまえを しってるんだね」と書かれています。

先生から名前を呼ばれて、一年生の生活が始まります。先生と自分との関係、クラスメートとの関係をつくることをこれから経験していきます。

職場も同じです。新しい場への愛着形成がスムーズになされるよう、上司、先輩、職場の仲間たちが、「〇〇さん、～してくれてありがとう」「〇〇さん、がんばったね」「〇〇さん、いつでも質問していいんだよ」と、こうした言葉かけを、その人に向けてしていくことを繰り返していきましょう。今年の新入社員「〇人のうちの1人」ではなく、「〇〇さん」という大切な存在です。